

第3回 国際センター駅北地区複合施設基本構想に関する懇話会 主なご意見

■ 今後の本懇話会の進め方について

- ・この懇話会の中で、施設のビジョンとハード面に限らずに、建物ができるまでの間どのように事業展開し、国内外へ発信していくかなどを考えられるといい。
- ・複合施設ができて、どのような協働事業を展開していくか、複合することによってどのようなメリットをつくり出せるかなどを率直に話し合う必要がある。

■ 音楽ホール・中心部震災メモリアル拠点の施設概要について

【両施設共通】

- ・市内の既存施設との役割分担を明確にすべき。
(音楽ホールと青年文化センターなどとの役割分担、中心部震災メモリアル拠点と荒浜小・3.11メモリアル交流館との役割分担など)
- ・施設開館に先立ち、なるべく早い段階から専門的な活動ができる人材でチームを作り、その人たちが施設整備を具体化させるプロセスに参画することが重要だと思う。
- ・「交流」と「人材」に加えて、もう一つ大きな重要なテーマとして「創造」がある。「創造する」ということが「人をつくる」ことになるし、「施設を造る」ことになる。この施設が創造ということを中心にやろうとしている点で、非常に有意義だと思う。
- ・十分な人件費を確保し、その人たちが専門性を発揮できる環境をこの施設の中につくってほしい。
- ・開館前から様々な形で既存の活動をこのホールに結びつけていくということも非常に重要。活動をつなげるだけでなく、市民の間にサポーターをつくっていくということ、活動するポテンシャルを市民の中に掘り起こしていくということにもつながる。

【音楽ホール】

- ・基本方針、機能、事業、内容が明確にされていて、中で企画、制作していく立場としては非常にやりやすい。
- ・リハーサル室は、本来、リハーサルや練習、あるいは小さな公演を行えるような場所としてあるべきで、会議などでの利用は臨時的なものとするべき。

【中心部震災メモリアル拠点】

- ・震災を知らずに生まれた子どもがまもなく中学生になっていく現実がある。未来につながっていくような施設になるといい。
- ・メモリアルで必要とされている活動、今活動されている方のニーズなどを踏まえて、事業内容などを精査することが重要ではないか。
- ・既存施設、事業の中でこの施設がどのようなポジションを占めて、どういう独自性を発揮して役割を果たすのかということの分析が必要。

■ 複合に向けたイメージについて

- ・それぞれの施設において混み合う時期、閑散とする時期が生じることも想定され、そういう凹凸に対して融通が利くような仕組みがあるといい。
- ・音楽ホールとメモリアル、目的が違うところから来るというようなこともあると思う。そこをうまく融合していくということが重要だと感じた。
- ・融合という言葉のもう少し上の価値を表現できるといい。融合を超えた、この施設ならではの価値というものを市内そして国内、海外に発信できるような、そういったことを言葉も含めて考えていきたい。
- ・仙台市内には既に複合施設がいくつもあり、いい面もあれば、教訓もある。その両面をこの施設でしっかり昇華し、自分たちのノウハウにするための取組みができればいい。

■ 青葉山エリアに立地する施設としてのあり方について

【周辺環境を踏まえた建築上の配慮】

- ・「青葉山」との景観の一体性をぜひ守ってほしい。
- ・この場所に重なっている歴史を空間の中で感じられるような仕組みが欲しい。

【MICE との連携・協力】

- ・MICE 側もこの施設もウィン・ウィンの関係になるように工夫をしながら、効果的にできるといい。
- ・この時期は絶対に外せないというときは、コアになる活動を阻害しないよう、第一義的に使うべき人たちが使えるようにしていくことが重要。
- ・MICEをマイナスのこととして捉えるのではなく、むしろ仙台の文化芸術、災害文化を発信する機会であると前向きに捉え、今後の具体的な事業構想等に組み込んでいくといい。

【エリア内外との回遊性】

- ・動線の中にそれなりのホスピタリティを提供するようなサービスがないと難しい。力を入れて開発し、いろいろな人が通っていくような環境を整えてほしい。
- ・民間レベルでいろいろなアイデアを出せ、受け入れられるような土地利用の整理があるといい。
- ・需給バランスがうまくとれるような形を検討することも必要。お店やカフェなどを必要な時に、機動的、柔軟な動きができるような手法があるといい。
- ・様々な文化的施設が集まっている地域なので、ぜひ相互に情報連携を図ってほしい。
- ・施設の在り方だけでなく、この施設で行っていく具体的な事業の中でも回遊性の確保について考えていく必要がある。